

小倉村について

春日市の前身は、明治時代に那珂郡の5村が合併した春日村です。その一つである小倉村は、5村の中央に位置します。

「小倉」の地名は、小高い台地が由来です。鎌倉時代の古文書に記された「小倉庄二十五丁」とも伝えられています。



▲春日市に属する旧村

春日市の歩み

明治22（1889）年
那珂郡5村→春日村

昭和28（1953）年
春日町（町制施行）

昭和47（1972）年
春日市（市制施行）



▲現在の伯玄社



▲お札の版木

伯玄社と民話「はっけんさん」

かつて伯玄社遺跡と知られた丘の上に、小倉に伝わる民話の主人公「はっけんさん」を祀る祠が残されています。大己貴神や高皇産霊神と並び、敬われてきました。

農民のヒーロー「伯玄（はっけんさん）」は、雇い主を恐れず、曲がったことが大嫌いな大飯食いの働き者です。広い土地を開墾し、ため池を作ったり、倒れた馬の看病をしたりしたという逸話が語り継がれています。明治以降は不動院でお札が作られ、守り神としても人気がありました。

今でも「伯玄社2丁目」だけが、1丁目がない不思議な地名として残っています。

地域の方々と一緒に歩いて作ったマップです

実際に地域を歩いて、そこに残る文化財の魅力を知り、地図にして伝えようと、令和6年10月26日（土）・11月2日（土）に「文化財マップ作りワークショップ 小倉の歴史を知ろう！伝えよう！」を開催しました。

1回目は、つばき庵で講師の話の聞き、改築されたばかりの住吉神社からスタート。小倉ならではの旧道を散策しながら地域の文化財を見て回りました。

2回目は、水路に詳しい氏子の方の話の聞いたり、1回目の散策を思い出しながら、地図に気づいたことや感じたことを書き込み、熱心にマップ作りに取り組みました。

ぜひ皆さんもこのマップで、小倉の歴史を訪ね歩いてみてください。



▲フィールドワークの様子



▲マップ作りの様子

春日市文化財マップ

小倉の歴史を知ろう！伝えよう！



歩いて訪ねよう！ 小倉地区の文化財マップ

<凡 例>

- 旧県道
- 旧水道(推定)
- 散策ルート
所要時間60分(約2.2km)
- 庚申塔
- 保存樹木



不動院
ふどういん
昔、このあたりでは「坊さん」と呼ばれ、琵琶を弾いてさまざまな祈禱を行っていた。現存の不動尊は鎌倉時代のものといわれる。荒神僧の霊力や当時の信仰に関する文書、御守護、琵琶やお札の版木などが、民家にそのまま残されている。



嫁ごの尻たたき

藤浪池公園

ゴール！

以前は「てっちゃん池」と呼ばれるため池だった

十一面観音と千手観音がある



こくらすみよしじんじや
小倉住吉神社 神社

祭神は表筒男命・中筒男命・底筒男命。古くは宝暦8(1758)年記載の宮座祭礼記が残っている。令和6(2024)年に神殿と拝殿を改築。地域の伝統行事(嫁ごの尻たたき・左義長)が今もこの神社を中心に続けられ、村の鎮守として重要な役割を果たしてきた。



はくげんじや
伯玄社

この地の字は「サヤノマエ(塞ノ前)」といい、集落の入口で災いが侵入するのを防ぐと伝えられる。昔、旧小倉村に伝わる民話の主人公「伯玄(はっけんさん)」を祀るお堂が最も高い場所にあった。



だいべんざいてんじんじや
大弁財天神社 神社

創建は天明元(1781)年。信仰が一時中断したが、明治以降は宮座をもって再興し、今も民家の裏山に祀られている。主神に弁財天、相殿に宇賀神を合祀した。高台にある小堂の社殿に鎮座し、弁財天には欠かさず生卵をお供えするという。



たかみおすひのみことどう
高皇産霊尊塔



馬守護神塔

馬守護神塔は、馬解き場(大南)にあったものをここに移した

春日市
商工会議所

自衛隊病院

③は私有地内にあるため、ここから見える

小倉公民館

小倉中央公園

夏祭りの会場で盆綱引きが行われている



小倉盆綱引き

小倉バス停



たいしどう
大師堂
農村集落での大師信仰から、木祠堂の中には弘法大師が鎮座している。いつからか、よだれかけをつけ「お地藏さま」と呼ばれていた。



こくらやくしどう
小倉薬師堂
昔から目の病気を治す薬師として有名。戦前までは「め」を書いて張り拝む「御願立て」が行われていた。尊像と木祠堂は旧筑紫郡で最大。令和6年に尊像を金箔修復し、お堂も修繕されたばかりである。



うえのやまかんのん
上ノ山観音

16世紀ごろ、寺屋敷にあった無量寺が焼失廃寺した後、観世音菩薩が残されたため、高台に観音堂を再建して祀ったのが起こりとされる。旧那珂郡三十三カ所の24番札所でもあった。

昔、大南と呼ばれていたこの地に、馬解き場があった

←至 那珂川市